

令和5年度(2023年度)金沢大学法科大学院入学試験問題
【A日程入試】法律専門科目試験

刑法 出題の意図

問題1は、刑法総論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、共犯論の基本的用語である必要的共犯に関する基本的な理解を問うものである。特に対向犯は総則の教唆・幫助の適用が排除されうることの記述は必須であり、それに加えて総論規定の適用が排除される場合の基準についての立法者意思説に対する評価が示されていると高評価となる。(2)は、過失犯の成立範囲を限定する要素である信頼の原則に関する基本的な理解を問うものである。これの意義ならびにこれが必要である理由が適切に記述されていることが必要であり、その限界にまで記述が及んでいると高評価となる。

問題2は、刑法各論上の典型論点である不法原因給付と財産犯の成否、関連して正当な行為を告知した脅迫罪・恐喝罪の成否に関する事例問題である。関係する各罪の保護法益論、不法原因給付物の所有権の帰趨との関係などに意を払いつつどのような規範を立て、矛盾なく解答が導かれているかを問うている。